20030134

厚生労働科学研究　研究費補助金
社会保障国際協力推進研究事業

戦後日本の健康水準の改善経験を
途上国保健医療システム強化に活用する方策に関する研究
（H14－国際―001）

平成15年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　中村　安秀

平成16（2004）年　4月

厚生労働科学研究費補助金研究報告書目次

目　　次

I．総括研究報告
戦後日本の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用する方策に関する研究　1
中村安秀

II．分担研究報告
1．母子保健の経験を途上国に活用するための方策に関する研究
中村安秀　7
2．結核の経験を途上国に活用するための方策に関する研究
石川信克　35
3．戦後日本の農村開発を途上国に活用するための方策に関する研究
佐藤　寛　52
4．保健婦の経験を途上国に活用するための方策に関する研究
坂本　真理子　55
5．助産師の経験を途上国に活用するための方策に関する研究
大石　和代　77
6．途上国保健医療システムにおける日本の経験の応用可能性に関する研究
藤﨑　智子　86
III．研究成果の刊行に関する一覧表　95

厚生労働科学研究費補助金（社会保障国際協力推進研究事業）
総括研究報告書

戦後日本の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用する方策に関する研究

総括研究者　中村安秀　　大阪大学大学院人間科学研究科　教授

研究要旨

本研究では、わが国における戦後の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用するために、生活改善運動などの農村開発、結核をはじめとする感染症対策、母子手帳などの母子保健対策を中心に、戦後における保健婦、助産婦の活動についても科学的な検討を加えた上で、途上国の立場からそれらの日本での経験の応用可能性を検討する。

本年度に全国各地で精力的に実施されたインタビュー調査結果などにより、戦後の日本の保健医療に関する重要な共通点が浮き彫りにされた。受益者の視点から見た「評価」や「賞賛」そのものが地域における保健医療活動の原点であったこと、保健婦や助産婦は現場のニーズに沿って現場で工夫するという自由裁量権を確保していたこと、住民に近い現場ではフロントライン・ワーカーによる「マルチ・セクター」的な協働作業が実行されていたことなどである。本調査の主たる対象者である昭和 20—30 年代に日本の地域保健医療を支えた世代はすでに高齢であり、現時点で質的分析を行う緊急性は非常に高い。

最終年度は、母子保健、農村開発、結核といった戦後の保健医療改善に大きな役割を果たした分野を横断した学際的研究成果をまとめ、その成果を英文で公表する予定である。

分担研究者氏名・所属機関及び所属機関における職名

中村安秀（大阪大学大学院人間科学研究科・教授）
石川信克（結核予防会結核研究所・副所長）
佐藤寛（アジア経済研究所経済協力研究部・主任研究員）
大石和代（長崎大学医学部保健学科・教授）
坂本真理子（愛知医科大学看護学部・講師）
藤崎智子（Health and Development Service (HANDS)・事務局長）

A. 研究目的

途上国からは第二次世界大戦後の急激な乳幼児死亡率の減少など保健医療指標の改善を経験したわが国の保健医療システムに学びたいという非常に強い期待が寄せられている。しかし、途上国では、文化、宗教、経済状況、交通手段、教育レベル、居住環境などの保健医療を取り巻く環境がわが国と大きく異なり、医師などの保健医療従事者の不足、医療施設や器具の貧弱さなど保健医療面での種々の問題を抱えており、日本の経験がそのまま現地で応用できるわけ

ではない。日本の保健医療システムが発展してきた軌跡を科学的に分析することによりはじめて、国外でも援用できる普遍性をもつことが可能になる。

本研究では、わが国における戦後の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用するために、生活改善運動などの農村開発、結核をはじめとする感染症対策、母子手帳などの母子保健対策を中心に、戦後における保健婦、助産婦の活動についても科学的な検討を加えた上で、途上国の立場からそれらの日本での経験の応用可能性を検討する。

都市化と高齢化という戦後のわが国がたどってきた少子高齢化社会における保健医療問題はアジアではすでに現実の課題となっており、日本のたどってきた保健医療指標の改善の道筋を科学的に分析し途上国や国際機関に発信する意義は大きい。また、21 世紀の地域保健医療の推進において、保健婦や助産婦の新たな役割が模索されているが、戦後の保健医療分野での成果を歴史科学的に分析することにより、わが国の今後の保健医療改革の斬新なアイデアや指針が生じることが期待される。

B. 研究方法

昨年度の研究成果をより一層深めることを主たる目的として、本年度は、英文先行研究および日本語文献を中心としたデータベースの作成とともに、個別テーマごとに、精力的なインタビュー調査を実施した。

データベース作成として、日本の母子保健医療システムの歴史的経過に関して検討した英文先行研究および日本語文献を収集し、途上国への応用を検討する上で必要となる基礎的資料の作成を行った。

石川は、戦後の日本の結核の著しい減少は、国家的取り組みによる結核対策の成果、それを支える社会体制および公衆衛生的基盤が重要であったという初年度の研究成果に基づき、保健師等への聞き取り調査（沖縄県、長野県）により現場の結核対策活動が、他の公衆衛生活動にいかに有益であったかを分析し、結核活動の意義付けを行った。佐藤は、主に沖縄、長崎、北海道、長野の他、「蚊とハエをなくす運動」に関する関係者インタビューなどの聞き取り調査を実施した。大石は、長崎県内に在住する元開業助産婦22名への聞き取り調査を実施し、調査結果の分析から助産婦活動の特徴を抽出した。坂本は、戦前・戦後のわが国の農村僻地において、最も住民の生活に近い立場で保健活動を行っていた保健婦の経験に焦点を当て、当時保健活動を行っていた退職保健婦を対象に、赴任時の地域の状況や生活課題・健康課題、具体的な活動方法と内容、組織的な支援体制等についてインタビュー調査を行った。藤崎は、本年度は、欧米および日本の妊産婦の健康問題に関する国際協力関係者への個別インタビューを行い、同時に文献的分析を行った。

（倫理面への配慮）

今回の研究調査は、戦後の健康水準の改善経験を途上国保健医療システム強化に活用する方策に関する検討であり、直接研究の対象となるのは日本の保健医療関係者や途上国政府、国際機関などである。また、インタビュー調査などを行う際には、日本の保健医療関係者については合意を得てから実施し、相手国や国際機関に対しては必要に応じて文書による了解を取ってから行う

ので、倫理上問題になることはないと思われる。

C. 研究結果

本研究班で収集した文献資料のレビューのデータベースは、日本の保健医療政策を途上国で応用する際の貴重な基礎的資料となりうることが明らかとなった。今後、より具体的な指針を明記する形のレビューを行うためには、今回検索した文献などを基に、戦後の健康水準向上に特に寄与したと推察される母子保健医療政策・活動につき、その効果を検証した先行研究に検索対象を絞ることが望ましい。また、日本の母子保健医療について述べる場合、「影」の部分から学べる事を考察することも大切であることが判明した。

日本の戦後の結核対策は一時国家保健医療予算の3割近くも占めるほどの優先性が高かったが、縦割りのサービス強化でなく、あくまで一般保健システムの中で位置づけられてきた。即ち日本の経験は、結核対策によって保健システム全体が強化される側面を強調していくことができる。

農村開発調査の結果からは、戦後期の「農村開発」「地域保健」に関する重要な視覚が浮かび上がってきた。すなわち、「評価(evaluation)」と「賞賛(appreciation)」の対比という問題が視覚化されてきた。短期間での実績主義ではなく、長期的に「受益者」から「感謝」(Appreciate) されることが活動の目的とされ、実際に「感謝」が寄せられることで公務員たる保健婦、生活改良普及員などは「達成感」という報償を得、「義務感」という倫理を維持出来たのではないだろうか。仮にこのような「献身的態度」が単なる日本的な文化的特質によるもの、ではなく、制度的な要因によるものであるとするならば、そしてそれが日本の戦後の社会開発の成功の鍵であるとするならば、現在の途上国に対する農村開発（農村部での保健健康改善協力を含む）プロジェクトに対する大きな教訓として提示することができるであろう。

助産婦調査によれば、開業助産婦は、助産師免許取得後、出身地にもどり、「見習い」「研修」「修行」という形で助産所や医院に2年程度勤務する。この期間は、新米助産婦が先輩助産婦や医師から指導・助言を受け、助産の実践能力を高めるのに役立つ。さらに、助産師仲間や医師および地域住民との間の信頼関係づくりにも役立ち、この経験がその後の開業助産婦活動を円滑にする。また、開業後は職能団体に加入し、研修に積極的に参加することにより、助産技術の向上に努める。助産婦に認められている自由裁量権は、助産婦の主体的な活動を促進するだけでなく、助産婦に強い責任感を抱かせ、生涯にわたる自己研鑽につながっていた。

保健婦調査からは、保健医療従事者としての役割を遂行するとともに組織的なアプローチがあること、住民の生活全般の相談に応じながら、生活課題・健康課題を包括的に捉えていくプロセス、地域で得られる人的・組織的資源の徹底した活用、女性を中心とした地区組織活動の展開方法が明らかとなった。

国際機関などの専門家へのインタビュー調査からは、過去の援助経験や日本自身の妊産婦ケアに関する明治以降の歴史の中か

ら、ポジティブな経験は活かし、ネガティブな経験は真摯に検証することが重要であると思われた。

D. 考察

これらの研究結果から、戦後の日本の保健医療に関する重要な共通点が浮き彫りにされつつある。ひとつは、短期的かつ実証的な成果主義ではなく、受益者の視点から見た「評価」や「賞賛」そのものが地域における保健医療活動の原点であったことである。第二点は、そのために、保健婦や助産婦、生活改良普及員は現場のニーズに沿って現場で工夫するという自由裁量権を確保していたことである。第三点は、厚生省、農林省、文部省という縦割り行政にもかかわらず、住民に近い現場では、フロントライン・ワーカーによる「マルチ・セクター」的な協働作業が実行されていたことである。第四点として、それらの保健医療従事者は、「達成感」という無形かつ無償の報酬を得ることで、仕事に対する情熱を持ち続け研鑽を重ねていた。これらの特質が、普遍的なものかどうか、今後の文献的考察や海外の関係者のインタビュー調査などを積み重ねていく必要があろう。

E. 結論

本研究の最終目標は、わが国における戦後の健康水準の改善経験に関する要因をEvidence-based Approachにより明らかにし、途上国の保健医療システム強化に活用するために、途上国の専門家の意見を取り入れた形の提言にまとめることである。本研究では、すでに数量的に分析された現存の研究成果のレビューを行うとともに、戦後の保健医療指標の改善に貢献した人びとに焦点を当て、インタビュー調査などの質的分析を実施してきた。本調査の実施に当たり痛感したことであるが、昭和20年代および30年代に、日本の地域保健医療を支えた世代の人々はすでに高齢（多くは70－80歳代）になっており、現時点で質的分析を行う緊急性は非常に高い。

最終年度には、本研究班の特徴である「マルチセクター・アプローチ」に焦点を当て、母子保健、農村開発、結核といった戦後の保健医療改善に大きな役割を果たした分野を横断した学際的な研究成果をまとめていく。本研究班の成果をもとに日本国際保健医療学会シンポジウムが実施される予定である。また、それらの成果は最終的に英文で公表する予定であり、途上国や国際機関の関係者にも日本の戦後の軌跡を発信できる意義は大きい。

F. 健康危険情報

とくになし

G. 研究発表

1. 論文発表

1）佐藤寛　連載「途上国ニッポンの知恵」国際協力機構『クロスロード』

2003年4月号「50年前の開発ワーカー」

2003年5月号「台所改善へのかまど」

2003年6月号「達流しの設計」

2003年7月号「職業としてのかんながけ」

2003 年8月号「無視出来ない民間参入の力」

2003 年9月号「現場からのフィードバック」

2003年10月号「改良かまどの背後にある

もの」
2003年11月号「開拓者たちを支えた開拓保健婦」
2003年12月号「ホームプロジェクトの授業」
2004年1月号「共同炊事という試み」
2004年2月号「手作りの三角パンツ」
2004年3月号「共同保育という福音」
2) 佐藤寛 「社会開発と普及」『アジ研ワールドレンド』2003年6月号 (pp.55-56)
3) 佐藤寛 「貧困削減・社会開発の視点から見た戦後」『アジ研ワールドトレンド』2003年12月号 (pp.3-5)
4) SATO,Kan Hiroshi"*Growth with Equity through Livelihood Improvement Program*", in Globalization carried on Human Feet, Institute of Developing Economies,2004 pp.1-13
5) 池野雅文 (研究協力者)「農村開発における住民組織化の可能性」佐藤寛編『援助と住民組織化』アジア経済研究所 2004 pp.169-193
6) 太田美帆 (研究協力者)『生活改良普及員から学ぶファシリテーターのあり方：戦後日本の経験から学ぶ』 国際協力機構平成15年度客員研究員調査研究報告 2004年3月

2. 学会発表
1) Nakamura Y. Maternal Deaths in Japan from the perspective of social medicine, UNICEF/MOH Sympisium, Tokyo, June 2003
2) Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, MCH Sympisium, Osaka University, June 2003
3) Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, The 3rd International Symposium of MCH handbook. Bogor, Indonesia, Aug. 2003
4) Nakamura Y. Early detection and Health Care for Infants with Intellectual disabilities, The 16th The Asian Conference on Mental Retardation. Tsukuba, Aug. 2003
5) Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, The 6th World Congress of Perinatal Medicine. Osaka, Sep. 2003
6) Nakamura Y. Maternal and Child Health Handbook Program in JAPAN. The Asian Networking Meeting on Nutrition. Tokyo, Jan. 2004
7) 當山紀子, 中村安秀. 母子健康手帳プログラムの自立過程に関する事例研究 ーインドネシア国北スラウェシ州におけるユーザーフィーシステム (受益者負担制度) の構築ー. 第19回日本国際保健医療学会東日本地方会 (東京) 2004年
8) Bhuiyan S. Nakamura Y. Maternal and Child Health - Family Planning Services in Rural Bangladesh. 第22回日本国際保健医療学会西日本地方会 (明石) 2004年
9) 佐藤寛『ライブリフッド・アプローチと生活改善運動』 「JICA国際セミナー／農村開発と日本の生活改善運動」2003/8/4 JICA国総研
10) 佐藤寛『貧困削減・社会開発の視点から見た「戦後」』 「JICA・アジ研共同公開講座／日本型貧困削減アプローチは可能か」2003/10/7 JICA国総研

11）佐藤寛『忘れられた日本の経験～生活改善グループの宝～』　「農村生活改善協力のあり方に関する研究JICA山口県ｾﾐﾅｰ」2003/11/26 山口市

12）関なおみ（研究協力者）「住民参加型開発における専門職の参加～戦後日本のカとハエのいない生活実践運動におけるアクター分析を元に～」　国際開発学会第四回春季大会報告　2003/6/14　学術総合センター

13）太田美帆（研究協力者）「日本の生活改善経験は伝授出来るか」　国際開発学会第四回春季大会報告　2003/6/14　学術総合センター

14）太田美帆（研究協力者）「ファシリテーターの技術とは～生活改良普及員から学ぶこと」　国際開発学会第 14 回全国大会報告 2003/11/30　日本福祉大学

15）大石和代、中尾優子、荒木美幸、長岡清子、野中伸子、小川由美子．戦後日本の開業助産師経験の途上国への応用可能性について．九州地区看護研究学会（佐賀市），2003 年 11 月

16）中尾優子、門司和彦、大石和代、松尾奈美子、Mahmudur　Rahman、Flora Rahman,後藤利江．バングラデシュ・ダムライ郡の分娩・授乳状況：妊婦、乳幼児をもつ母親、伝統的産婆、地域家族福祉補助員、看護師への集団面接結果．日本民族衛生学会（熊本市）　2003 年 11 月

17）長岡清子、野中伸子、大石和代．開拓保健婦活動に関する検討．長崎県看護学会（諫早市）2004 年 1 月

18）大石和代、荒木美幸、中尾優子．開業助産師の経験を途上国へ応用する可能性についての検討―戦後の開業助産師活動についての調査から―．日本助産学会（東京都）2004 年 3 月

H．知的財産権の出願・登録状況

該当せず

厚生労働科学研究費補助金（社会保障国際協力推進研究事業）
分担研究報告書

母子保健の経験を途上国に活用するための方策に関する研究

分担研究者　中村安秀　大阪大学大学院人間科学研究科　教授

研究要旨

本研究の目的は、日本における戦後の母子保健の改善、とくに乳幼児死亡率の減少と妊産婦死亡率の減少に焦点を当て、その要因を科学的に分析検討することにより、途上国の母子保健対策に応用できる具体的な提言を行うことにある。今年度は、前年度に引き続きわが国の母子健康手帳プログラムの応用可能性の検討として、アメリカ合衆国ユタ州の事例を検討した。また、日本の母子保健医療システムの歴史的経過に関して検討した英文先行研究および日本語文献を収集し、途上国への応用を検討する上で必要となる基礎的資料の作成を行った。今後は、これらのデータベースをもとに、途上国への応用可能性を検討していくことが求められる。

A. 研究目的

本研究の目的は、日本における戦後の母子保健の改善、とくに乳幼児死亡率の減少と妊産婦死亡率の減少に焦点を当て、その要因を科学的に分析検討することにより、途上国の母子保健対策に応用できる具体的な提言を行うことにある。

B. 研究方法

本年度は、米国で最初に母子手帳の導入されたユタ州における現状を分析するために、関係者への聞き取り調査を行った。また、途上国への応用を検討する上で必要となる基礎的資料の作成を目的とし、日本の母子保健医療システムの歴史的経過に関して検討した英文先行研究および日本語文献を収集した。

英文先行文献の検索にはMEDLINEを用いた。対象年は限定せずMEDLINEに登録されている1966年以降全ての文献を対象とした。言語は英語で、要約のあるもののみを抽出対象とした。検索分野は、中絶・家族計画、人口・出生、死亡（母子関連の指標）、母子保健サービス、そして地域保健に加えて、研究班での討議により岩手県沢内村と感染症を追加した。

日本語文献の検索は、日本語論文データベース「医学中央雑誌（以下、医中誌と略す）」を対象とし、本研究テーマに関連する複数キーワードを用いて検索を行った。論文検索対象年は1983～2004年である。

（倫理面への配慮）

ユタ州の聞き取り調査の対象は保健医療関係者であり、インタビュー調査を行う際には、合意を得てから実施した。また、文献検索は、すでに存在する資料を使用したので、倫理上問題になることはない。

C. 研究結果

（1）ユタ州の母子健康手帳は、「Baby Your Baby Health Keepsake」という名称で、6色刷り、

118 ページ。日本の母子健康手帳よりもボリュームがあり、1990 年に作成された。母子手帳の内容を単なる医療記録に止めず、母親にもやさしい内容にするというコンセプトにより、母親へのソーシャルマーケティングなどの結果を参考に改訂版を作成した。ユタ州が把握する限り、ユタ州に続いて複数の州が独自に母子健康手帳を開発している。

（2）英文先行文献の検索は、重複を除きデータベースに入力した文献総数は 83 件となった。戦後日本の母子保健について歴史的に、または記述統計を用いて論じた論文は決して少なくない。しかし、日本の戦後母子保健について網羅的に文献を収集し、国外の読者に向けて解説した総説は見当たらなかった。

（3）日本語文献の検索において、213 件の文献を収載した。本研究テーマにおけるキーワードでは、「昭和」「戦後」などが必須となるが、これらのキーワード単独では本研究に適した内容は検索できなかった。絞り込み検索の段階で、検索式に「not 昭和/IN」「not (CK=現代（戦後）)」等の not 式を用いることで検索精度を向上させることができた。

D. 考察

本研究班で収集した文献資料のレビューのデータベースは、日本の保健医療政策を途上国で応用する際の貴重な基礎的資料となりうることが明らかとなった。

今後、より具体的な指針を明記する形のレビューを行うためには、今回検索した文献などを基に、戦後の健康水準向上に特に寄与したと推察される母子保健医療政策・活動につき、その効果を検証した先行研究に検索対象を絞ることが望ましい。また、特定の母子保健医療事業の有用性を検証した近年の研究や、日本に限らず他国における同様の事業についての研究も検討することが必要である。

日本の母子保健医療について述べる場合、「影」の部分から学べる事を考察することも大切である。例えば、家族計画の推進により中絶は急激に減少し、経済発展を目的とした出生率の抑制には成功したが、これは近年一転して少子化問題として取り上げられている。また、コンドームを主に既婚者対象に推進した家族計画政策は、戦後の中絶総数の減少には成功したものの、近年は若年層の計画外妊娠の増加が問題となっている。

E. 結論

日本の保健医療技術を途上国に応用することは、同時に日本もまた途上国から学ぶチャンスを得ることである。今後、「影」の部分も含めて、日本の戦後の保健医療政策の歴史的経緯をより良い形で他国に提案するために検討すべき課題は多い。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

とくになし

2. 学会発表

當山紀子，中村安秀．母子健康手帳プログラムの自立過程に関する事例研究 ーインドネシア国北スラウェシ州におけるユーザーフィーシステム（受益者負担制度）の構築ー．第 19 回日本国際保健医療学会東日本地方会（東京） 2004 年

Bhuiyan S Nakamura Y. Maternal and Child Health - Family Planning Services in Rural Bangladesh. 第 22 回日本国際保健医療学会西日本地方会（明石） 2004 年

Nakamura Y. Maternal Deaths in Japan from the perspective of social medicine, UNICEF/MOH Sympisium, Tokyo, June 2003

Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, MCH Sympisium, Osaka University, June 2003

Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, The 3rd

International Symposium of MCH handbook. Bogor, Indonesia, Aug. 2003

Nakamura Y. Early detection and Health Care for Infants with Intellectual disabilities, The 16th The Asian Conference on Mental Retardation. Tsukuba, Aug. 2003

Nakamura Y. Maternal and child health handbook program in Japan, The 6th World Congress of Perinatal Medicine. Osaka, Sep. 2003

Nakamura Y. Maternal and Child Health Handbook Program in JAPAN. The Asian Networking Meeting on Nutrition. Tokyo, Jan. 2004

H. 知的財産権に出願・登録状況

とくになし

（中村報告書）資料１

厚生労働科学研究費補助金（社会保障国際協力推進研究事業）分担研究
日本の母子保健医療システムの途上国への応用可能性の検討（研究協力者報告書）

日本語文献に関する戦後医療史資料レビュー

高橋謙造 1)、舟橋敬一 2)、中村安秀 3)
1)順天堂大学医学部公衆衛生学教室、2)埼玉医科大学小児科学教室、3)大阪大学大学院人間科学研究科

目的：戦後日本の健康水準の改善に関する日本語文献をデータベース化するための検索手法の確立を試みた。
方法：日本語論文データベース「医学中央雑誌（以下、医中誌と略す）」を対象とし、本研究テーマに関連する複数キーワードを用いて検索を行った。論文検索対象年は 1983～2004 年である。
結果：①213 文献を収載した。②本研究テーマにおけるキーワードでは、「昭和」「戦後」などが必須となるが、これらのキーワード単独では本研究に適した内容は検索できなかった。絞り込み検索の段階で、検索式に「not 昭和/IN」「not (CK=現代（戦後）)」等の not 式を用いることで検索精度を向上させることができた。③連載文献，看護系論文が比較的多数存在することなどが明らかになった。
まとめ：not 式とチェックタグを利用した除外絞り込み検索が必要であることが明らかになった。また検索結果からは、有用な連載論文や看護系論文が多く、有用であることが明らかとなった。

A. 目的

戦後日本の健康水準の改善に関する日本語の文献記録を幅広くデータベース化するため、母子保健関連情報を中心として検索を行った。これらの系統的なデータベース化は、戦後日本の健康水準の改善経験を科学的に検証していくためには必須の作業である。今回は、その手法の確立を目的の一つとして検索を試みた。

B. 対象と方法

a) 対象： 日本語医学文献データベース「医学中央雑誌」を対象とした。対象年は、医中誌収載の全年度（1983 年～2004 年分まで）とし、最終検索日は 2004 年 3 月 31 日である。

b) 方法： ①複数キーワードを用いた検索式を使用

主として使用したキーワードは、戦後、終戦、大戦後、敗戦、小児、母子、保健婦、助産婦、公衆衛生、医学誌、医療史、昭和、昭和前期、開発、発展、GHQ、学校、感染症、疫痢、下痢、結核、トラコーマ、トラホームである。

検索式およびヒット数に関しては、表１にまとめた。

②更に、抄録の内容を実際に検討して取捨選択を行った。この際に、会議録，抄録なし文献等に関しても、標題から十分に資料価値があると考えられた場合には収載した。また、疫痢，トラコーマ（トラホーム）等に関しては、途上国への適

用価値を鑑み、臨床記録的な内容のものもあえて収載した。

C. 結果と考察

a) 総文献数：　キーワードより最終的に入力に該当した文献は 268 文献であった。そこから重複を除き、213 文献を収載した。

b) 絞り込み検索上の問題点

① 本研究テーマにおいては、そのキーワードの必要性の関係上、PubMed 等の英文検索と比べ複雑な検索式を用いる必要性があることが明らかになった。以下に、「昭和」「戦後」という２つのキーワードを例にとって示す。

② 医中誌は検索形式では、著者の所属先も検索されてしまう。したがって、「昭和」というキーワード単独で検索すると、ヒット数は２万件を超えてしまう。よって、絞り込み検索の段階で、「昭和大学」などの学術機関, 病院名を除外する作業が必須であった。このためには、「not 昭和/IN」式が有効であった。
具体的には、「母子　昭和」では 143 件のヒット数だったが、「(母子/AL and 昭和/AL) not 昭和/IN」では 91 件まで絞り込むことができた。

③ 医中誌には、絞り込み検索を容易にするための指標として『チェックタグ』というシステムがある。このチェックタグの中に「研究内容の歴史区分」という項目があり、この中で「現代（戦後)」という記載がある。1995 年以前の論文では、症例報告や実験系論文などのすべてにこのタグが付いており、戦後というキーワードで検索すると 7,000 件以上の論文がヒットする。本研究では、このチェックタグを除外して検索する必要があった。具体的には、「not （CK=現代（戦後))」を検索式に含めることで検索の精度が大きく改善した。

c) 論文の内容について：　本年度は、検索手法に重点をおいたため、取得した論文の内容の吟味に関しては現時点では不十分である。しかし、現時点で入手しえた一部の論文から得られた考察を以下に記載する。

① 連載論文の有用性：　本研究テーマに合致する内容の論文が、連載形式で収載されているものがあり有益な情報を得た。「戦後日本の公衆衛生」丸井英二（『保健の科学』連載)、「昭和前期の公衆衛生」清水勝嘉（『防衛衛生』連載)、戦後看護出来事史（『看護』収載)、「公衆衛生こぼれ話」（『公衆衛生情報』収載)、「日本医療史」日戸修一（『日本医事新報』収載）などが主なものである。

② 看護系技術史，活動史：看護，助産技術の導入や発展に関するもの 7 件、地域における看護保健活動事例報告 12 件、看護に関連した人物史 4 件、看護制度関連 12 件，看護教育関連 6 件などがあり、途上国に紹介するに値するデータベースの基礎となる可能性が考えられた。

③ 人口統計，死亡統計：人口統計関連 4 件に関しては、戦後から現代までの人口統計の変化を見るものが多かった。乳児死亡率関連 2 件，妊産婦死亡率 3 件，感染症死亡関連 2 件に関しては、今後検索式を更に改良した上での検索を要すると考えられた。

D. まとめ

本研究テーマに適した医中誌の検索のためには、not 式とチェックタグを利用した除外絞

り込み検索が必要であることが明らかになった。また検索結果からは、有用な連載論文や看護系論文が多く、有用であることが明らかとなった。

表１：検索式とその抽出数，最終入力該当数一覧（内容の重複含む）

検索式	抽出数	入力該当数
戦後/AL and (小児/TH or 小児/AL) not (CK=現代（戦後）)	35	15
戦後/AL and 母子/AL not (CK=現代（戦後）)	7	7
(戦後/AL and (学校/TH or 学校/AL)) not (CK=現代（戦後))	32	28
(戦後/AL and (公衆衛生/TH or 公衆衛生/AL)) not (CK=現代(戦後))	120	63
(戦後/AL and (感染症/TH or 感染症/AL)) not (CK=現代(戦後))	19	11
戦後/AL and (ワクチン/TH or ワクチン/AL)	19	0
戦後/AL and (予防接種/TH or 予防接種/AL)	2	0
((戦後/AL) and ((助産師/TH or 助産婦/AL) or (保健師/TH or 保健婦/AL))) not (CK=現代（戦後）)	19	19
(戦後/AL and (農村/TH or 農村/AL)) not (CK=現代（戦後）)	5	1
戦後/AL and 開発/AL	44	1
(((医学史/TH or 医学史/AL) or (医学史/TH or 医療史/AL)) and 戦後/AL) not (CK=現代（戦後）)	58	19
(((医学史/TH or 医学史/AL) or (医学史/TH or 医療史/AL)) and (小児/TH or 小児/AL)) not 小児/IN	153	8
((昭和/AL and 母子/AL) not 昭和大学/IN) not 当院/AL	91	8
(昭和/AL and (下痢/TH or 下痢/AL)) not 昭和/IN and (PT=症例報告除く)	124	1
疫痢	20	9
(トラコーマ/TH or トラコーマ/AL) or (トラコーマ/TH or トラホーム/AL) and (PT=症例報告除く)	92	5
(戦後/AL and (結核/TH or 結核/AL)) not (CK=現代（戦後）)	18	11
大戦後/AL	49	6
昭和前期/AL	31	31
終戦/AL	36	13
敗戦/AL	19	12

最終検索日　2004/3/31

論文名	著者	掲載誌	発行年	分類
「健康優良児童表彰事業」にみる戦後日本の健康観の変容　マスメディアの健康文化機能	瀧澤利行, 高石昌弘, 菊田文夫	健康文化研究助成論文集5号 Page71-80(1999.03)	1999	一般
「昭和30年代の医学・保健・医療」の主旨　1950年代(昭和30年前後)の小児科及び児童福祉関係	高木秀夫	医学史研究(0019-1612)77号 Page24-26(2000.09)	2000	一般
『日本ニ於ケル學校衛生ノ現状ニ関スル統計資料』の戦後学校保健政策上の位置	七木田文彦, 和唐正勝, 野村良	学校保健研究(0386-9598)45巻2号 Page121-144(2003.06)	2003	一般
『保健婦雑誌』52年の軌跡から　戦後,地区組織活動の源流をみる 『保健婦雑誌』1951年～1960	山口忍	保健婦雑誌(0047-1844)59巻11号 Page1094-1100(2003.11)	2003	一般
『民族衛生』掲載論文の分野別レビュー　母子保健関連分野	小林正子	民族衛生(0368-9395)66巻増刊 Page30-47(2000.11)	2000	総説
【眼科学の歴史　現代眼科学を築いた人々】 眼科の疾病・研究史　感染症	渡邊郁緒	眼科診療プラクティス93巻 Page84-88(2003.04)	2003	一般/特集
【眼感染症診療ガイド】 眼感染症への取り組み・いまむかし　トラコーマとクラミジア	宮木功冥	臨床眼科(0370-5579)57巻11号 Page58-59(2003.10)	2003	解説/特集
【眼感染症診療ガイド】 眼感染症への取り組み・いまむかし　むかしのトラコーマ治療とその意義	小林俊策	臨床眼科(0370-5579)57巻11号 Page287(2003.10)	2003	解説/特集
【眼感染症診療ガイド】 眼感染症への取り組み・いまむかし　眼感染症　故きを温ねて	北野周作	臨床眼科(0370-5579)57巻11号 Page86-88(2003.10)	2003	解説/特集
【結核診療の今日的問題】 我が国の結核　戦前・戦後そして今日	森亨	臨牀と研究(0021-4965)75巻4号 Page711-716(1998.04)	1998	解説/特集
【現代の子どもの食生活の問題点】 学校給食の現状と問題点	川戸喜英枝	小児科(0037-4121)41巻11号 Page1860-1867(2000.10)	2000	解説/特集
【保健・福祉の仕組みの変遷】 学校給食　今・昔	吉田真理子	保健の科学(0018-3342)45巻1号 Page36-40(2003.01)	2003	一般/特集
【保健・福祉の仕組みの変遷】 学校保健の変遷	高石昌弘	保健の科学(0018-3342)45巻1号 Page7-11(2003.01)	2003	解説/特集
【予防接種Q&A】 予防接種の歴史	平山宗宏	小児内科(0385-6305)32巻10号 Page1414-1418(2000.12)	2000	解説/特集
1887-1965年出生の日本人少年における最大身長増加年齢の変遷(英語)	松本健治, 工藤陽子, 竹内宏一	Wakayama Medical Reports(0511-084X)23巻3号 Page99-106(1	1980	原著論文
1945年広島の被爆者を看護した看護婦のオーラルヒストリー　8月6日から終戦まで	大原良子, 森山美知子	日本看護科学学会学術集会講演集22号 Page309(2002.12)	2002	会議録
GHQによる戦後の看護教育カリキュラムの成立と経緯	佐藤公美子	日本医史学雑誌(0549-3323)48巻3号 Page370-371(2002.09)	2002	会議録
GHQ占領下におけるわが国の看護教育の成立過程　東京看護教育模範学院の成立と展開	, 奥宮暁子, 平尾真智子, 石川ス	聖路加看護学会誌(1344-1922)7巻1号 Page34-40(2003.06)	2003	原著論文
Grace Elizabeth Altによる第二次世界大戦後の看護改革	大石杉乃	日本医史学雑誌(0549-3323)47巻4号 Page854-855(2001.12)	2001	会議録
Standardization Approach(年齢調整化手法)による出生動向の解析　過去45年間における北陸3	松井利夫, 蓮川貢	北陸公衆衛生学会誌(0386-3530)30巻1号 Page34-41(2003.10)	2003	原著論文
メリオイドーシスの日本人初例を戦地で診療した軍医 崎原英夫先生 細菌学の知識と技術を戦中	荒川迪生	Progress in Medicine(0287-3648)10巻9号 Page2481-2494(199	1990	原著論文
わが国の結核　明治から今日まで　戦後の結核	小松良夫	大塚薬報(0030-669X)591号 Page63-66(2003.12)	2003	解説
わが国の小児看護の変遷　国立東京第一病院及び国立小児病院を中心に	駒松仁子, 佐々木和子, 伊藤愛	国立看護大学校研究紀要(1347-3611)1巻1号 Page41-49(2002	2002	原著論文
衛生統計に基づくわが国の感染症死亡に関する研究	階堂武郎, 根岸竜雄	筑波大学医療技術短期大学部研究報告(0285-0702)6号 Page1	1985	原著論文
沖縄の結核戦略とその成果　第二次大戦後の沖縄の結核事情と対策	大城盛夫	結核(0022-9776)76巻3号 Page215(2001.03)	2001	会議録
沖縄県児童のアレルギー疾患の増加傾向と社会的変化の関係	中岡嘉子, 千葉康則	日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)8巻3号 Page109-118(1	1994	原著論文
沖縄諸島における第二次大戦後のハブ咬症に関連する文献と1964年-1996年の間の推定咬症数	西村昌彦	沖縄県衛生環境研究所報(1341-0636)32号 Page125-135(1998	1998	原著論文
沖縄戦後の人工栄養と保育所の変遷	長田紀春	沖縄の小児保健(0912-0335)28号 Page71-74(2001.03)	2001	解説
化学療法 昭和から平成への道	藤井良知	化学療法の領域(0913-2384)5巻9号 Page1756-1757(1989.09)	1989	原著論文
過去帳による地域集団の健康水準の評価	市川雅教, 豊川裕之, 吉田節子	民族衛生(0368-9395)49巻4号 Page199-209(1983.07)	1983	原著論文
我が国における戦後の公衆歯科衛生政策の変遷とその数量的評価の試み	岩田昌也, 石井拓男, 中垣晴男	愛知学院大学歯学会誌(0044-6912)26巻3号 Page465-477(198	1988	原著論文
我が国における薬物乱用防止教育の変遷	石川哲也	学校保健研究(0386-9598)43巻1号 Page15-25(2001.04)	2001	解説
我が国の戦後における地域別にみた児童・生徒の身体発育について	村松宰	民族衛生(0368-9395)50巻付録 Page90-91(1984.07)	1984	会議録
我が国の妊産婦死亡率と生物学的因子との関連	安川隆子, 林謙治	公衆衛生院研究報告(0020-3106)39巻1号 Page11-19(1990.03)	1990	原著論文
我が国の妊産婦死亡率の動向に関する一考察	安川隆子, 西田茂樹, 林謙治	日本公衆衛生雑誌(0546-1766)36巻3号 Page170-179(1989.03)	1989	原著論文
各国薬局方に見られたサリチル酸規格の比較とその変遷(明治期から昭和前期まで)	山田光男	薬史学雑誌(0285-2314)18巻2号 Page73-86(1983.12)	1983	原著論文
学校保健(成長・発育); 身体; 成長学校近視について考える(2) 戦前,戦後における眼屈折度分布	神谷貞義	眼科臨床医報(0386-9601)77巻11号 Page1811(1983.11)	1983	会議録
看護; 感染症(予防,看護); 滅菌戦後の看護技術はどのように変わってきたか 病室環境調整	松田明子	看護技術(0449-752X)35巻8号 Page916-923(1989.05)	1989	原著論文
看護学教育の精神に関する歴史学的研究　人物研究的アプローチを中心に	丸山マサ英	九州大学医療技術短期大学部紀要(0286-2484)28号 Page63-6	2001	原著論文
救急看護の基盤づくり(終戦～昭和39年)	柘植尚子, 米丸香里, 明石恵子	エマージェンシー・ナーシング(0915-4213)9巻3号 Page235-238	1996	一般
教科書にみるベッドメーキングの変遷	神山貴子	神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録(1341-8661)26	2001	原著論文
結核の戦後史 目ざましい進歩と残された問題	砂原茂一	からだの科学(0453-3038)120号 Page73-77(1984.11)	1984	原著論文
公衆衛生こぼれ話(第2回) 戦前・戦後の公衆衛生の歴史 保健婦の駐在制と公衆衛生修学生資金	聖成稔, 小野寺伸夫	公衆衛生情報16巻2号 Page26-30(1986.02)	1986	原著論文
公衆衛生こぼれ話(第8回) 戦後の公衆衛生の歴史 環境問題と民間公衆衛生活動	須川豊, 小野寺伸夫	公衆衛生情報16巻9号 Page23-27(1986.09)	1986	原著論文
今,なぜ戦後医療技術史か(1) ハイテク医療への関心のたかまりとその背景	上林茂暢	病院(0385-2377)50巻7号 Page613-617(1991.07)	1991	原著論文
今,なぜ戦後医療技術史か(2) ハイテクノロジーとローテクノロジーとの共存	上林茂暢	病院(0385-2377)50巻8号 Page686-690(1991.08)	1991	原著論文
今,なぜ戦後医療技術史か(3) 戦後医療技術史の時期区分(1)	上林茂暢	病院(0385-2377)50巻10号 Page869-873(1991.10)	1991	原著論文
今,なぜ戦後医療技術史か(4) 戦後医療技術史の時期区分(2)	上林茂暢	病院(0385-2377)50巻11号 Page979-984(1991.11)	1991	原著論文

最近のわが国における周産期死亡の改善に関する統計的考察	加藤則子	日本公衆衛生雑誌(0546-1766)35巻4号 Page171-178(1988.04)	1988	原著論文
在胎期別にみた生産児および死産児体重の分析(英語)	緒方昭, 河野公一, 西川美紀	Bulletin of the Osaka Medical School(0030-6142)28巻2号 Page	1982	原著論文
産育習俗　島根県・隠岐の島の調査	吉元亜希子, 西村正子	ペリネイタルケア(0910-8718)15巻5号 Page445-454(1996.05)	1996	原著論文
子育て今昔物語　終戦迄の人工乳	加藤翠	チャイルド ヘルス(1344-3151)2巻7号 Page525-529(1999.07)	1999	解説
子育て今昔物語　戦後の人工乳の発展	加藤翠	チャイルド ヘルス(1344-3151)2巻8号 Page595-598(1999.08)	1999	解説
自分史からみた群馬の国保保健婦活動(第8回) 敗戦後の混乱	内堀千代子	保健婦雑誌(0047-1844)39巻1号 Page38-39(1983.01)	1983	原著論文
終戦前後の性感染症	沼水舜一	埼玉県医学会雑誌(0389-0899)32巻8号 Page1289(1998.03)	1998	会議録
終戦前後の動乱期を乗り越えて 山川ますへさんの活動の軌跡	小野桂子	保健婦雑誌(0047-1844)41巻3号 Page205-217(1985.03)	1985	原著論文
終戦前後の日本医学会	渋谷鉱, 他	日本医史学雑誌(0549-3323)38巻2号 Page332-333(1992.04)	1992	会議録
終戦直前の救急法	吉井秀鎮, 他	日本歯科麻酔学会雑誌(0386-5835)21巻1号 Page192(1993.01)	1993	会議録
助産婦活動の変遷(3) 大正・昭和時代の助産婦	竹村薫, 岡本喜代子, 長浜博子	助産婦(0389-9063)41巻10号 Page5-14(1987.12)	1987	原著論文
助産婦職能の変遷を探る(10) 戦後数年,助産婦をとりまく諸状況	大林道子	助産婦雑誌(0047-1836)39巻11号 Page986-992(1985.11)	1985	原著論文
助産婦職能の変遷を探る(26) 戦後の行政主導の受胎調節	大林道子, 他	助産婦雑誌(0047-1836)41巻9号 Page806-814(1987.09)	1987	会議録
昭和20年代の日本のペニシリン事情	藤井良知	母子化学療法(1341-1780)11巻2号 Page65-73(1997.04)	1997	解説
昭和26,40,48～53年における北九州市小学生の乳歯脱落と永久歯萌出	荷宮文夫, 相良好仁, 松尾欣治	別府女子短期大学紀要(0287-8690)8号 Page1-5(1986.12)	1986	原著論文
昭和30～40年代における岩手県の母子保健活動に関する考察	齋藤恵梨子, 藤村由希子	母性衛生(0388-1512)44巻3号 Page217(2003.09)	2003	会議録
昭和37年10月1日施行の社会保険診療における「抗生物質使用基準」実施が日本の抗菌薬消費	藤井良知	母子化学療法(1341-1780)12巻1号 Page17-28(1998.02)	1998	一般
昭和初期の母子保健をめぐる展覧会　三田谷治療教育院の実践を通して	駒松仁子	国立看護大学校研究紀要(1347-3611)2巻1号 Page69-79(2003	2003	一般
昭和前期(1926～1945)の公衆衛生(第14報) 母子保健	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻1号 Page9-25(1986.01)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第10報) 性病(花柳病)予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻9号 Page425-442(1985.09)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第11報) トラホーム予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻10号 Page467-477(1985.10)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第12報) 寄生虫病予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻11号 Page505-521(1985.11)	1985	一般
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第13報) 農村保健	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻12号 Page551-568(1985.12)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第15報) 精神衛生	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻2号 Page47-52(1986.02)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第16報) 国民の栄養問題	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻3号 Page81-94(1986.03)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第17報) 環境衛生	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻9号 Page473-479(1986.09)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第18報) 労働衛生	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻11号 Page541-548(1986.11)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第19報) その他の公衆衛生活動	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)33巻12号 Page591-594(1986.12)	1986	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第1報) 防疫一般及びコレラ予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)31巻4号 Page89-97(1984.04)	1984	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第2報) 赤痢予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)31巻5号 Page127-133(1984.05)	1984	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第2報) 内務省所管の衛生行政	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)29巻8号 Page239(1982.08)	1982	会議録
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第3報) 厚生省設置後の衛生行政	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)29巻8号 Page240(1982.08)	1982	会議録
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第3報) 腸チフス及びパラチフス予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)31巻7号 Page175-185(1984.07)	1984	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第4報) 地方衛生行政	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)29巻8号 Page240(1982.08)	1982	会議録
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第4報) 痘瘡,発疹チフス及び猩紅熱予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)31巻10号 Page357-366(1984.10)	1984	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第5報) ジフテリア,ペスト及び流行性脳脊髄膜炎の予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻1号 Page1-15(1985.01)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第5報) 保健所の設置	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)29巻8号 Page240-241(1982.08)	1982	会議録
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第6報) 結核予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻2号 Page29-46(1985.02)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第7報) 軍事援護事業のなかの結核対策	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻4号 Page93-99(1985.04)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第8報) 農村における結核予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻4号 Page101-110(1985.04)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(第9報) らい予防	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)32巻7号 Page201-211(1985.07)	1985	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(補遺)(第1報) アヘンおよび麻薬対策	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)34巻7号 Page269-274(1987.07)	1987	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(補遺)(第2報) 衛生行政からみた麻薬対策(その1)	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)34巻8号 Page321-326(1987.08)	1987	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(補遺)(第2報) 衛生行政からみた麻薬対策(その2)	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)34巻9号 Page349-355(1987.09)	1987	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(補遺)(第3報) 阿片委員会	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)34巻10号 Page395-398(1987.10)	1987	原著論文
昭和前期(1926-1945)の公衆衛生(補遺)(第4報) アヘンの国際規制	沼水勝嘉	防衛衛生(0006-5528)34巻11号 Page431-434(1987.11)	1987	原著論文
昭和前期の労働衛生	乾修然	産業医学(0047-1879)25巻3号 Page204(1983.05)	1983	会議録
昭和前期の労働衛生史	乾修然	日本医史学雑誌(0549-3323)29巻2号 Page212-214(1983.04)	1983	会議録
昭和二十四年の岩ヶ鳴接種結核事件について　GHQ文書と日本の資料	渡部幹夫	日本医史学雑誌(0549-3323)49巻3号 Page479-492(2003.09)	2003	一般
職業婦人の戦前・戦後史に関する実証的研究　ある助産婦の生活史の事例	永瀬悦子	星総合病院年報(0915-7344)14号 Page165(2001.12)	2001	会議録
性病予防行政史　戦後の激動期を中心に	長門谷洋治, 他	日本医史学雑誌(0549-3323)44巻2号 Page280-281(1998.04)	1998	会議録
先進国における乳児死亡率の減少タイプの変化	加藤則子, 加藤忠明, 堀口貞夫	日本総合愛育研究所紀要(0286-4908)26巻 Page96-98(1990.10	1990	原著論文
占領下のこども医療史　エキリ物語(1)　日本占領	二至村哲	小児内科(0385-6305)27巻7号 Page1064-1066(1995.07)	1995	解説

占領下日本に対する看護対策決定の経緯 終戦までにアメリカが収集分析した情報およびマニラ	大石杉乃	東京都立医療技術短期大学紀要(0916-040X)7号 Page113-11	1994	原著論文
占領期における山梨県の看護活動の展開	佐藤公美子, 坪井良子	山梨医科大学紀要(0910-5069)18巻 Page27-30(2001.12)	2001	解説
戦後50年の看護 大学課程看護教育の進展	小玉香津子	看護(0022-8362)47巻15号 Page73-77(1995.12)	1995	一般/特集
戦後50年の看護 保健婦助産婦看護婦法の過去・現在・未来	金子光	看護(0022-8362)47巻15号 Page52-55(1995.12)	1995	一般/特集
戦後50年間における日本人小児の体格の経年的変化について	加藤文代, 村上理子, 伊藤けい	日本小児科学会雑誌(0001-6543)104巻2号 Page171(2000.02)	2000	会議録
戦後こどもおむつに関する学会報告の変遷	加藤翠	小児保健研究(0037-4113)55巻2号 Page218(1996.03)	1996	会議録
戦後における疾病構造と病院(その1)	中野進, 山脇敬子	京都医学会雑誌(0453-0039)42巻1号 Page177-187(1995.06)	1995	一般
戦後における疾病構造と病院(その2)	中野進, 山脇敬子	京都医学会雑誌(0453-0039)42巻1号 Page189-195(1995.06)	1995	一般
戦後における精神薄弱児学級の成立 名古屋市の旭白壁小,菊井中,幅下小の検討	小川英彦	発達障害研究(0387-9682)15巻1号 Page63-76(1993.04)	1993	原著論文
戦後における地域別にみた児童,生徒の身体発育曲線のComputer Graphicsによる解析	村松宰	日本栄養・食糧学会41回講演要旨集 Page99(1987.05)	1987	会議録
戦後にみる小児栄養学の進展 高齢化社会を迎えて	若生宏	日本医事新報(0385-9215)3288号 Page32-34(1987.05)	1987	原著論文
戦後のわが国の死亡水準の低下とその人口学的要因	高橋重郷	人口問題研究(0387-2793)164号 Page19-36(1982.10)	1982	原著論文
戦後の沖縄の保健所における結核治療	新城正紀, 有泉誠, 等々力英美	民族衛生(0368-9395)61巻付録 Page128-129(1995.11)	1995	原著論文
戦後の感染症対策小史(1)	大橋誠	公衆衛生(0368-5187)54巻10号 Page706-708(1990.10)	1990	原著論文
戦後の看護	川田勝代	看護実践の科学(0385-4280)10巻12号 Page38-42(1985.12)	1985	原著論文
戦後の看護について何をどう教えるか 戦後40年の歩み	高田みつ子	看護実践の科学(0385-4280)10巻12号 Page29-23(1985.12)	1985	原著論文
戦後の看護技術はどのように変わってきたか 安全・安楽(休息)	宮崎和子	看護技術(0449-752X)35巻8号 Page856-864(1989.05)	1989	原著論文
戦後の看護技術はどのように変わってきたか 感染予防	林和枝	看護技術(0449-752X)35巻8号 Page883-889(1989.05)	1989	原著論文
戦後の看護技術はどのように変わってきたか 看護管理の発展経緯 戦後における看護組織の変	草刈淳子	看護技術(0449-752X)35巻8号 Page1026-1036(1989.05)	1989	原著論文
戦後の看護技術はどのように変わってきたか 地域看護	宮里和子	看護技術(0449-752X)35巻8号 Page995-1000(1989.05)	1989	原著論文
戦後の公衆衛生で保健婦の果たした役割とプライマリー・ヘルス・ケア 国際協力への展望をふま	森口育子, 兵井伸行	公衆衛生研究(0916-6823)42巻2号 Page229-239(1993.06)	1993	原著論文
戦後の産科医療の変遷 産科学雑誌をもとに	松岡悦子	旭川医科大学紀要(一般教育)(0387-8090)20号 Page53-65(199	1999	原著論文
戦後の人口変動と人口政策	嵯峨座晴夫	公衆衛生(0368-5187)59巻1号 Page21-24(1995.01)	1995	原著論文
戦後の都道府県別出生数と出生性比の基本的観察	坂井博通	厚生の指標(0452-6104)43巻13号 Page15-21(1996.11)	1996	原著論文
戦後の日本の公衆衛生 保健婦・助産婦・看護婦と公衆衛生(その1)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)33巻2号 Page116-118(1991.02)	1991	原著論文
戦後の乳児死亡 忘れられた記録	菅野恒有	岩手県衛生研究所年報(0917-7922)25号 Page79-97(1983.09)	1983	原著論文
戦後の八幡製鉄の保健婦活動	橋本ユキエ	産業医学(0047-1879)31巻6号 Page446-447(1989.11)	1989	会議録
戦後の避妊指導の歴史	荻野悌	助産婦雑誌(0047-1836)44巻2号 Page125-129(1990.02)	1990	原著論文
戦後わが国の出生・死亡低下と人口高齢化	勝野真人, 西田茂樹, 林謙治	民族衛生(0368-9395)52巻4号 Page196-206(1986.07)	1986	原著論文
戦後わが国の出生・死亡低下の長期的影響 人口の超高齢化はいかにして起こるか	勝野真人	厚生の指標(0452-6104)34巻4号 Page6-13(1987.04)	1987	原著論文
戦後沖縄における看護教育の特異性に関する研究 看護学校と琉球大学の教育提携を中心に	大嶺千枝子, 仲里幸子	日本看護歴史学会誌(1340-5969)15号 Page16-33(2002.03)	2002	一般
戦後沖縄の医療の変遷と救急医療	真栄城優夫	小児科臨床(0021-518X)53巻3号 Page429(2000.03)	2000	会議録
戦後沖縄の医療史 医療制度の変遷を中心に	照屋寛善	医学史研究(0019-1612)69号 Page5-11(1996.08)	1996	一般
戦後沖縄の結核対策に関する調査研究 保健所活動を中心に	新城正紀, 有泉誠, 等々力英美	民族衛生(0368-9395)63巻6号 Page362-373(1997.11)	1997	原著論文
戦後沖縄の保健医療行政の推移とその展開(第11報) 結核対策	宮城重二	民族衛生(0368-9395)51巻付録 Page58-59(1985.07)	1985	会議録
戦後沖縄の保健医療行政の推移とその展開(第8報) 米国施政下における沖縄の衛生法規-伝染	宮城重二	民族衛生(0368-9395)50巻付録 Page76-77(1984.07)	1984	会議録
戦後看護界出来事誌(13) 日本産婆看護婦保健婦協会設立と機関誌「看護」創刊	大岳康子	看護(0022-8362)37巻9号 Page114-128(1985.08)	1985	原著論文
戦後看護界出来事誌(14) 日本助産婦会の独立	伊藤隆子	看護(0022-8362)37巻10号 Page118-127(1985.09)	1985	原著論文
戦後看護教育を振り返る 日本看護協会看護研修学校校長・永井敏枝氏に聞く	鵜沢陽子	看護教育(0047-1895)25巻9号 Page531-540(1984.09)	1984	原著論文
戦後埼玉の看護史(第4報) リーダーにきく看護改革,再教育活動	五十嵐節, 他	日本看護学会18回集録看総合 Page206-209(1987.07)	1987	会議録
戦後産婦人科40年史	品川信良	日母医報39巻4付録 Page3-4(1987.04)	1987	会議録
戦後日本の外国人医師導入 導入プロセスと認識を中心に	今野卓美	日本医史学雑誌(0549-3323)48巻3号 Page458-459(2002.09)	2002	会議録
戦後日本の公衆衛生 医療と医薬品の戦後 医薬品等の現在	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻8号 Page566-568(1993.08)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生 医療と医薬品の戦後 医薬分業について	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻10号 Page718-720(1993.10)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(1) その前史(1)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻5号 Page304-306(1990.05)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第12回) 保健婦・助産婦・看護婦と公衆衛生(その3)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)33巻5号 Page344-346(1991.05)	1991	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第12回) 保健婦・助産婦・看護婦と公衆衛生(その3)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)33巻5号 Page344-346(1991.05)	1991	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第17回) 乳児死亡率と日本の社会	丸井英二	保健の科学(0018-3342)33巻10号 Page707-710(1991.10)	1991	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第22回) 戦後栄養政策の裏面史のこと(下) アメリカ小麦の輸入と食卓の政	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻3号 Page184-186(1992.03)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第24回) 豊かな食生活と公衆衛生の課題	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻5号 Page362-366(1992.05)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第26回) 戦後の「健康保険制度」について(その2)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻7号 Page514-517(1992.07)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第27回) 戦後の「健康保険制度」について(その3)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻8号 Page582-585(1992.08)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第28回) 戦後の「健康保険制度」について(その4) 健康保険制度へのいくつ	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻9号 Page654-656(1992.09)	1992	原著論文

戦後日本の公衆衛生(第29回)学校給食について(1)戦前の学校給食	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻10号 Page721-723(1992.10)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第29回)学校給食について(1)戦前の学校給食	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻10号 Page721-723(1992.10)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第2回) その前史(2) 19世紀の衛生と公衆衛生	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻6号 Page374-376(1990.06)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第31回)学校給食について(3)学校給食の幸せな日々(上)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)34巻12号 Page876-878(1992.12)	1992	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第32回) 学校給食について(4) 学校給食の幸せな日々(下)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻1号 Page43-45(1993.01)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第33回)学校給食について(5)学校給食の現代的意義はどこに(上)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻2号 Page130-132(1993.02)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第34回)学校給食について(6)学校給食の現代的意義はどこに(下)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻3号 Page194-196(1993.03)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第35回)公害問題から環境問題へ(序)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻4号 Page267-269(1993.04)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第36回)公害問題から環境問題へ(2)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻5号 Page336-338(1993.05)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第37回)公害問題からの環境問題へ(3)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻6号 Page407-409(1993.06)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第3回) その前史(3)	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻7号 Page442-445(1990.07)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第42回)公衆衛生と医薬品の役割	丸井英二	保健の科学(0018-3342)35巻11号 Page787-789(1993.11)	1993	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第4回) 戦時下の公衆衛生	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻8号 Page515-517(1990.08)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第6回) PHW/GHQの組織から考えること	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻10号 Page674-677(1990.10)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第7回) わが国の保健所の盛衰	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻11号 Page755-757(1990.11)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第8回) 戦後の保健所 始まりの頃	丸井英二	保健の科学(0018-3342)32巻12号 Page824-826(1990.12)	1990	原著論文
戦後日本の公衆衛生(第9回) GHQと公衆衛生教育	丸井英二	保健の科学(0018-3342)33巻1号 Page40-43(1991.01)	1991	原著論文
戦後日本の天然痘	柳下徳雄	感染症(0301-259X)33巻6号 Page233-237,223-226(2003.11)	2003	解説
戦後保健教育研究史	内海和雄	健康会誌(0910-2868)37巻1号 Page41-50(1985.01)	1985	原著論文
戦後約40年間にわたる京都府における性病の動向について(1) 昭和23年～33年(10年間)	小森繁, 小森万智生	京都医学会雑誌(0453-0039)32巻1号 Page1-7(1985.03)	1985	原著論文
戦後約40年間にわたる京都府における性病の動向について(2) 昭和34年～43年(10年間)	小森繁, 小森万智生	STD(0912-0386)66巻1～2 Page22-43(1985.06)	1985	原著論文
戦後約40年間にわたる京都府における性病の動向について(Part 1) 昭和23年～33年(10年間)	小森繁, 小森万智生	STD(0912-0386)65巻4号 Page51-63(1984.12)	1984	原著論文
戦時医療体制と「戦後改革」	神谷昭典	医学史研究(0019-1612)69号 Page1-4(1996.08)	1996	一般
戦前・戦後の公衆衛生の歴史 模範保健所の開設から下水道行政まで	楠本正康, 小野寺伸夫	公衆衛生情報16巻4号 Page24-29(1986.04)	1986	原著論文
戦前戦後の公衆衛生の歴史 厚生行政発展に関する歴史的考察	小野寺伸夫	公衆衛生情報16巻6号 Page29-32(1986.06)	1986	原著論文
第二次世界大戦後50年間の大阪府民の脂肪摂取とビタミンE栄養状態の変遷 国民栄養調査成	原登久子, 美濃真	ビタミン(0006-386X)72巻9号 Page437-442(1998.09)	1998	原著論文
第二次世界大戦後の済生館における看護教育の歴史 甲種看護婦養成所設立までの経緯	大沼俊子, 鈴木由美子	山形市立病院済生館医学雑誌(0385-1184)28巻1号 Page3-10(	2003	解説
第二次大戦後の医学教育変革について	酒井シヅ	日本医史学雑誌(0549-3323)41巻2号 Page242-243(1995.05)	1995	会議録
長崎県の開業助産婦が地域母子保健に果たした役割 長崎県・富江町での調査	大石和代, 荒木美幸, 小川由美	長崎大学医療技術短期大学部紀要(0916-0841)14巻1号 Page3	2001	原著論文
東京都立松沢病院における患者動態 患者の年齢構成を中心に	斎藤正彦, 山田寛, 益子茂	厚生の指標(0452-6104)32巻14号 Page17-22(1985.11)	1985	原著論文
日本の大学病院の小児精神医学的クリニックにおける外来患者の歴史的変化 名古屋大学病院	SugiyamaToshiro, IshiiTakashi,	International Medical Journal(1341-2051)4巻1号 Page59-65(19	1997	原著論文
日本の都市型保健所における保健活動の変遷 1935年から1999年迄の東京都中央区の活動	菱沼典子, 成瀬和子, 酒井禎子	聖路加看護大学紀要(0289-2863)28号 Page1-17(2002.03)	2002	原著論文
日本の敗戦直前後の医事雑誌と発刊事情	寺畑喜朔	日本医史学雑誌(0549-3323)48巻3号 Page380-381(2002.09)	2002	会議録
日本医療史(52) (第4報) 終戦前後の医療混乱(8)	日戸修一	日本医事新報(0385-9215)3076号 Page70-74(1983.04)	1983	原著論文
日本医療史(53)(第4報) 終戦前後の医療混乱(9)	日戸修一	日本医事新報(0385-9215)3077号 Page75-78(1983.04)	1983	原著論文
日本医療団(第三報) 戦後の活動と九州地方の医療団施設	佐久間温巳	日本医史学雑誌(0549-3323)35巻2号 Page216-218(1989.04)	1989	会議録
日本人新生児の最近の性比と生下時体重	品川信良	日本医事新報(0385-9215)3932号 Page40-42(1999.09)	1999	原著論文
日本調剤学の創刊と発展 敗戦GHQの医薬分業勧告と調剤指針の誕生	中室嘉祐	日本薬学会109年会講演要旨集(0918-9823)4号 Page203(1989	1989	会議録
乳児の栄養方法と産後のアメノリア	三田房美	人口問題研究(0387-2793)169号 Page43-46(1984.01)	1984	原著論文
乳児の外因死の戦後40年間の動向について(第一報) 不慮の事故について	野田順子, 西田茂樹, 林謙治	小児保健研究(0037-4113)50巻3号 Page359-367(1991.05)	1991	原著論文
乳児の外因死の戦後40年間の動向について(第二報) 他殺について	野田順子, 西田茂樹, 林謙治	小児保健研究(0037-4113)50巻3号 Page368-374(1991.05)	1991	原著論文
妊産婦死亡からみた産科出血の意義	竹村喬, 久鉾男, 今井史郎	産婦人科治療(0558-471X)48巻6号 Page655-662(1984.06)	1984	原著論文
敗戦,そして看護の新しい半世紀の始まり	川島みどり	看護学雑誌(0386-9830)61巻1号 Page60-63(1997.01)	1997	一般
敗戦後の歯科ジャーナルの復刊	結城太郎	日本歯科評論(0289-0909)727号 Page204-205(2003.05)	2003	一般
敗戦後の日本歯科医師会	結城太郎	日本歯科評論(0289-0909)730号 Page202-203(2003.08)	2003	一般
病気の姿をデータで読む 感染症と戦後の総死亡	倉科周介	公衆衛生(0368-5187)53巻9号 Page644-646(1989.09)	1989	原著論文
福井県における母子保健統計の経年変化 周産期死亡率,乳児死亡率,妊産婦死亡率	上坂孝昭(福井県衛生研究所),	北陸公衆衛生学会誌(0386-3530)26巻2号 Page72-76(2000.03)	2000	原著論文
保健婦の歴史 戦前,戦中,戦後時代とともに歩んだ保健婦達	杉山太幹	公衆衛生情報21巻10号 Page20-24(1991.10)	1991	原著論文
保健婦活動を考える 戦後の保健婦の活動の軌跡から	石川京子, 石川里香, 篠原聡子	保健婦雑誌(0047-1844)42巻11号 Page955-962(1986.11)	1986	原著論文
豊かな出産への模索『助産婦の戦後』をめぐって	大林道子, 岡本喜代子	助産婦雑誌(0047-1836)43巻9号 Page772-778(1989.09)	1989	原著論文
満州国時代の歯科医人の活躍について(第2報) 敗戦後引揚げの苦労 特に福島秀策先生につい	長谷川俊夫	日本歯科医史学会々誌(0287-2919)10巻2号 Page106(1983.11)	1983	会議録
明治,大正,昭和出生女子の初経年齢の推移と関連要因の検討	野田艶子, 西山緑	Dokkyo Journal of Medical Sciences(0385-5023)27巻1号 Page	2000	原著論文
予防接種の歴史	大谷明	小児科臨床(0021-518X)49巻4号 Page559-563(1996.04)	1996	解説/特集

歴史に学ぶノウハウ　戦後の愛育班活動に学ぶ　発展途上国への適応に向けて	大友優子	保健婦雑誌(0047-1844)57巻12号 Page998-1004(2001.11)	2001	一般
歴史の足跡　北海道の医学教育　引揚医師の特例(続)　敗戦後の樺太医専	小竹英夫	北海道医報(0913-0217)959号 Page48-49(2000.10)	2000	一般
歴史の足跡　北海道の医学教育　戦後の樺太医専　医専存続の運動	小竹英夫	北海道医報(0913-0217)960号 Page32-33(2000.11)	2000	一般
歴史の足跡　北海道の医学教育　戦後医育制度の混乱	小竹英夫	北海道医報(0913-0217)969号 Page34-35(2001.04)	2001	一般
歴史の足跡　北海道の医学教育　敗戦による医学教育の有為転変	小竹英夫	北海道医報(0913-0217)955号 Page40-41(2000.09)	2000	一般
歴史の足跡　北海道の医学教育　敗戦時の医学校と歯科医の医師への転用	小竹英夫	北海道医報(0913-0217)957号 Page40-41(2000.09)	2000	一般

（中村報告書）資料２

厚生労働科学研究費補助金（社会保障国際協力推進研究事業）分担研究
日本の母子保健医療システムの途上国への応用可能性の検討（研究協力者報告書）

日本の母子保健医療システムの途上国への応用可能性の検討：英文先行研究のレビュー

福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座
後藤あや

背景

日本では戦後の経済成長とともに保健衛生水準が著しく向上し、母子保健分野の諸指標が急速に改善した。妊産婦死亡率（出生 10 万対）は 1950 年の 176.1 から 2001 年には 6.5 に、周産期死亡率（出生千対）は 1952 年の 56.6 から 2001 年には 3.6 に、乳児死亡率（出生千対）は 1950 年の 60.1 から 2001 年には 3.1 に[1]、そして中絶（15 才以上 50 歳未満女子人口千対）は 1955 年の 50.2 から 2002 年には 11.8 に低下した[2]。

一方で、社会の変化にともない少子化や児童虐待、10 代の中絶の増加など、新たな課題が出てきている。合計特殊出生率は 1950 年に 28.1 であったが、1956 年には人口置換水準を下回り、2001 年には 9.3 まで低下した[1]。少子化の中、生まれた子どもについては全国児童相談所における児童虐待相談処理数が 1990 年の 1101 件から 2000 年には 17725 件に急増している[3]。また、10 代の中絶率は 1995 年から上昇に転じ、1995 年の 6.2 から 2001 年には 13.0 に達した[2]。

非欧米圏で途上国から短期間に先進国の仲間入りを果たした日本の急激な健康水準の改善は、特にアジア諸国の保健医療政策立案上、参考になると考えられる。しかし当然ながら、文化、宗教、社会経済状況などが異なる環境に、日本の経験をそのまま応用できるわけではない。また、上記のように日本でも依然保健医療分野で多くの課題が残されており、途上国に同様の保健医療政策を導入する際、同じ結果を招かぬよう改善が必要である。国外に応用可能な普遍性のある保健医療政策の提案は、日本の保健医療の軌跡を科学的に分析することによりはじめて可能となる[4]。本報告は、日本の母子保健医療システムの歴史的経過に関して検討した英文先行研究を収集し、途上国への応用を検討する上で必要となる基礎的資料の作成を最終目的とする。今回は大まかな文献検索を試み、今後資料収集を進める上での方向性を検討した。

方法

文献の検索には MEDLINE を用いた。対象年は限定せず MEDLINE に登録されている 1966